

琉球大学学術リポジトリ

沖縄の一般住民における内臓脂肪蓄積に関与する因子

メタデータ	言語: en 出版者: 琉球大学 公開日: 2018-10-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新垣, 伸吾, アカラキ, シンゴ, Arakaki, Shingo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/42585

平成30年5月9日

(別紙様式第7号)

論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	新垣 伸吾
論文審査委員	審査日	平成 29 年 4 月 26 日	
	主査教授	益崎 裕章 印	
	副査教授	中里 雅光 印	
	副査教授	筒井 正人 印	
(論文題目)			
Factors associated with visceral fat accumulation in the general population in Okinawa, Japan			
(論文審査結果の要旨)			
上記論文に関して、研究にいたる背景と目的、研究内容および研究成果の意義と学術的水準について慎重に検討し、以下のような審査結果を得た。			
1. 研究の背景と目的			
内臓脂肪蓄積は高血圧、糖尿病、脂質異常症を含むメタボリックシンドロームとの関連性が報告されている。内臓脂肪蓄積はCTでの評価が標準的であるが、血液検査データや臨床像との関連性はあまり知られていない。このような背景のもと今回著者らは沖縄県の一般住民を対象に、内臓脂肪蓄積と関連のある血液検査データ、臨床像を検討した。			
2. 研究内容			
2008年4月から2009年3月までに沖縄県総合保健協会では人間ドックを受診し、内臓脂肪面積 (Visceral Fat Area 以下 VFA) を測定した 1151 例のうち HBs 抗原および HCV 抗体が陽性、または純アルコール摂取量が週 280g 以上の多量飲酒者である 147 例を除いた 1004 例 (男性 540 例、女性 464 例) を対象とした。検討項目は臨床像で年齢、身長、体重、body mass index (BMI)、腹囲、収縮期血圧、拡張期血圧、臍レベルでの CT 内臓脂肪面積、飲酒習慣、血液検査 (血算、肝機能、脂質、耐糖能など) として、臍レベルの VFA 100 cm ² をカットオフ値として内臓脂肪蓄積に関わる因子を検討した。対象症例の平均年齢は 55.6 ± 11.6 歳、BMI は 24.9 ± 3.4 kg/m ² で全体の 44.8% が肥満 (BMI ≥ 25 kg/m ²) であった。VFA と腹囲は男女とも正の相関を認めたものの、男性より女性のほうが高い相関係数を示した。単変量解析では高齢の男性、BMI 高値、収縮期血圧高値、拡張期血圧高値、HGB 高値の群で VFA が高値であった。また上記に加え男性では総コレステロール高値、女性では血小板低値と飲酒習慣のあ			

る群でも VFA が高値であった。多変量解析では、年齢 ≥ 56 歳、男性、BMI ≥ 24.4 kg/m²、血圧 ≥ 149 and/or 90 mmHg、中性脂肪 ≥ 149 mg/dL、飲酒習慣を有することが VFA 高値に寄与する因子であった。男女別では、男性では年齢 ≥ 56 歳、BMI ≥ 25 kg/m²、中性脂肪 ≥ 149 mg/dL であり、女性では年齢 ≥ 56 歳、BMI ≥ 24.4 kg/m²、HDL コレステロール < 40 mg/dL、飲酒習慣ありの群が VFA 高値に寄与する因子であった。

3. 研究成果の意義と学術的水準

本研究において内臓脂肪蓄積に関与する因子は性差があり、特に女性で飲酒習慣がある群ではない群に比べ内臓脂肪が蓄積していることが明らかになった。審査会において、論文表現の誤記、解析集団の選定における問題（男性の非飲酒者の 60%を占める集団で解析しても学術的意義は見いだせないため、単なるアーチファクトの有意差を捉えているに過ぎないこと、など）、解析結果に関する考察の欠如を指摘した。著者らは、誤記の訂正、考察の追加をジャーナルへ申請し、Erratum の形で修正を行ってジャーナル電子版に掲載された。比較的多数の症例で CT での内臓脂肪面積を用いた臨床研究であると評価される。以上により、本論文は学位授与に十分値するものであると判断した。

備考 1

用紙の規格は、A 4 とし縦にして左横書きとすること。

2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。

3 *印は記入しないこと。